

領域5インフォーマルミーティング議事録

文責：谷 峻太郎

日付：2021.3.13

出席者：領域代表・副代表・運営委員6名を含む計30名

配布資料：発表スライドをPDFで配布

<報告>

1. 次期領域代表・副代表・運営委員
2. 申込件数の推移
3. キーワード推移
4. ポスターセッション運営方法

<案内>

1. シンポジウム 2件
2. 米沢賞受賞講演1件
3. チュートリアル講演 2件
4. 若手奨励賞受賞講演 2件
5. 企画講演 1件
6. 秋季大会企画申込について

<審議>

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 次々期領域5運営委員の推薦 | → 承認された |
| 2. 発表英語化の検討 | → 領域としての意見を報告 |
| 3. キーワード編成 | → キーワードをカテゴリ化する形で変更 |

次々期領域5運営委員の推薦

1. 大村 周（名工大物）
2. 出田 真一郎（分子研）
3. 嵐田 雄介（筑波大）

発表英語化の検討

英語化にあたっての学会への要望

1. 冊子が日本語にも関わらず年会費を払わないといけない。留学生特別枠のように発表だけの申し込みが可能となるようにしてほしい。
2. 海外学会との合同シンポジウムの設定

英語化の手段

1. スライドを英語にするのは四の五のいわず一気にやっしまえば良いのではないか。
2. シンポジウムならばゆっくりバックグラウンドを説明できるので、英語化するのであればシンポジウムから始めるとよいのではないか。
3. 領域5では年次大会に学生優秀発表賞がないため、英語講演を発表賞の対象とすることで、学生の応募と英語化の推進を行うことができるのでは。
4. 英語発表件数のグラフ化をすると進捗がわかりやすいのではないか。

問題提起

1. 英語化が目的になるのではなく手段になるようにしないといけない。
2. 海外の学会とのジョイントシンポジウムのような形式にせず聴衆も日本語話者ばかりだと、何のために英語化するのがわからない。
3. 原子核などはAPSと合同で日米合同物理学会を行っているが、物性の場合はそのれに対応する組織がAPSのように大型となってしまう進めづら側面がある
4. 留学生、いままで連れてこなかった。日本語の発表ばかりだったので手持ち無沙汰。
5. 物理学会は発表時間が短いためバックグラウンドを話す時間がほとんどなく、英語になるとついていけない

キーワード編成

結論

- 案2をベースにキーワードを運営委員で検討し、キーワード変更届を出す
- キーワードの追加・削除を恒常化する

案1：キーワードの階層化

肯定的ご意見:

- キーワードが多すぎて、ワンセッションにまとまらないものもある。案1ならばセッションに分けるところまでは機械的できる

否定的ご意見:

- 地殻変動
- セッションを分けてしまうということをやってしまうと、運営委員がプログラムを組む自由度がなくなる。

案2：キーワードのカテゴリ化

肯定的ご意見

- 手法を縦糸、第1-第2を横糸にするとクラス分けしやすいのではないのか。現在のキーワード群は、手法となにをやるかが混在しているのが問題。手法で内容が分かれているので、手法を第一キーワードに持ってきた方が良い。

否定的ご意見

- セッション構成の手間が大きい

その他ご意見

- 強相関の理論にいた人が来てくれている。彷徨っている人を取り込めるようなキーワードにした方が良い。
- セッションがなにかというのはあまり気にしていない。似ている講演と被らなければ良い。
- 放射光セッションについて領域5ではテクニカルな発表がメイン。物性に関しては他領域で発表するというのが放射光のスタンス。
- キーワードの見直しが行われていなかったのが問題。毎回検討する習慣を確立すべき。
- 放射光とそれ以外の分光の垣根をどの程度高くしておくのか

その他質疑

- どうやって現状セッション名はきめているのか
 - 過去の発表を踏襲
- キーワードはどのように決定されるのか
 - インフォーマルミーティングで承認後、学会に報告
- なぜキーワードを変更の要求がでたのか。プログラム編成の都合か。
 - 古いキーワードが残っている。
 - 学会のキーワードの趣旨は、プログラムを組む人の都合。それがやりやすいようにキーワードを用意する。